

< 今日の説教のポイント マタイによる福音書 26 章 31～35 節 >
よく知っている話？ 否、予想を超えた神様の深い恵みの話です！
① 私たちの方が恥ずかしくなる自信たっぷりのペトロ 誰の姿？

この後、ペトロはイエス様の予告通り、三度主を否みます。私たちはそれを知っているので、この時の自信たっぷりのペトロの姿には私たちの方が恥ずかしくなります。しかし、ペトロだけでなく他の弟子たちも同じだったとあります。結局、これは私たち自身の神様に対する姿なのです！ 後にペトロはその罪に気づくのですが。

② 「わたしにつまずく」 妙な表現。その真意は？

イエス様は、「今夜、あなたがたは皆わたしにつまずく」(31)と言われました。「つまずく」と訳された元のギリシア語は、「罨にかける、罪に誘う」という意味の言葉です。ですから、ここを直訳すると、「今夜、あなたがたは皆わたしによって罨にかけられる(罪に誘われる)」となります。イエス様がペトロに罨をかけて裏切らせたということ?? そう言えば、ここでイエス様が引用されたゼカリヤ書の文章「わたしが羊飼いを打つ」も、「神様が打たれた」となっています。どういうことでしょうか？

③ 復活後のことも告げられた 弟子たちには希望の言葉！

イエス様は復活後のことも語られました。それも、「あなたがたより先にガリラヤへ行く」(32)と。これは弟子たちにとっては、「裏切ったのに、また私たちの先頭に立ち、『ついて来なさい』と言って下さっている！」、と思える感謝と希望に満ちた内容です。

④ 結論 自分を誇る自信ではなく、神様を誇る自信へ！

この世の教えでは自分に自信を持つことが大事とされます。よって、自信喪失は死につながります。しかし、聖書はそれとは根本的に違う教え、「私たちが弱くても、神様が強い」(コリント II 12:9)を語ります。自信は傲慢を生むと同時に自己卑下を生む罪ともなります。ペトロは神の御子を十字架にかける中でその自信の罪の大きさに気づきました。そのことに気づくために神様が「恵みの罨」を用意して下さったのです。そして言うて下さるのです、「わたしが先に行くから、安心してついて来なさい」と。大きな恵みです！